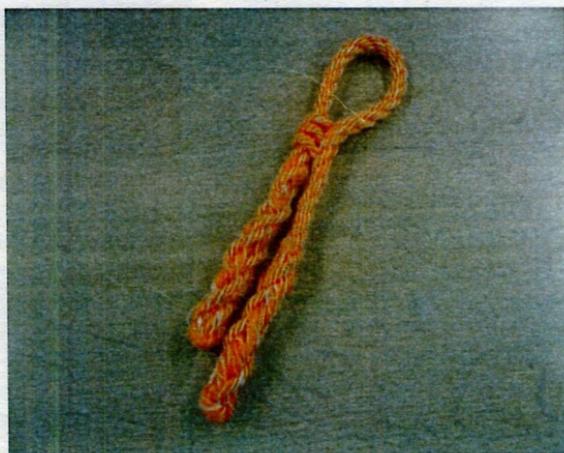


ハッピーリング

近年、交通死亡事故が年々減少傾向であるのに、一向に減らないのが農作業死亡事故。全国で年間約400名の方が尊い命を農作業中に亡くされています。都内でも、例外でなく、死亡事故も発生しています。

今回、農作業安全をアピールしようと「ぎんなんネット」の仲間が立ち上がりました。カラフルなロープを使い、無事に戻ってきてほしいという気持ちを込めて、この手作りお守りを「東京ハッピーリング」と名付けました。

ハッピーリングが広がり、家族、仲間を悲しませないように農作業事故を防止していきましょう。



ぎんなんネット（東京都農家女性グループ）

「農作業でハットしたこと」

私が農作業で危ないと思った事は、今から40年近く前のことです。

雑木林で薪を作っている時、丸ノコでの作業中のことです。私の着ていた作業着は割烹着で、腕の回りがだぶだぶに出来ていました。そのたるみが丸ノコの歯に引っ掛かって、とても怖い思いをしたことを今でも忘れることはありません。

それからは夫が大型の農業機械やチェーンソーを使用する時は、私が近くにいると、いないのでは安心感が違うと思い、一緒に農作業を手伝ってきました。我が家を訪れる皆さんから、「夫婦仲いいね!」と言われるようになりました。加齢とともに体力は弱ってきましたが、まだまだ頑張りたいため、労災保険に加入できるなら、加入手続きを行いたいと思います。



「ひと息の時間」

今から20年前のことです。

秋に牧草のたねを播き春に刈り取り、牛に与えていました。トラクターの後に刈り取り機をつけ、トラックの荷台のようなワゴン車をつけて牧草を積んで牛舎に帰ってきます。

ワゴン車の後の扉を上に向けて棒をたて、中の牧草を取り出していました。棒がはずれれば扉と荷台の間に挟まれてします。いつもこの仕事は、「いやだな」と思っていました。

ある日、夫は何の考えもなくトラクターを動かしたのです。エンジンの音に気がついて外に飛び出したので怪我はありませんでしたが、あまりに不注意な夫に少し腹が立ちました。

ぎんなんネットで「農作業中の事故について皆で考えよう」と話がでたとき、あの時の夫の事を考えました。男の人の仕事はたくさんあり、それをこなしていくには周りを気遣っている余裕もないのではないか・・・と。

いつも頭の中は農作業の事を考えている男の人は、一息ついてから作業に取りかかる方が良いかもしれません。

その“ひと息”の時間を作るのは妻の役目かな・・・



ぎんなんネットでは・・・

平成22年から、家族や仲間が元気で楽しく農業ができるように、農作業の事故防止を呼びかけています。「東京ハッピーリング」は、農作業安全のお守りとして、会員が手作りしています。